

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101213		
法人名	医療社団法人 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里小江原(花だより)		
所在地	長崎県長崎市小江原1丁目35-13		
自己評価作成日	令和7年7月29日	外部評価結果確定日	令和7年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和7年9月6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づきGHの介護方針を策定し、毎日その人らしく、安心で、楽しく生活できるよう支援しています。季節感を感じて頂けるよう、年間行事計画を作成し四季折々の花が咲く頃や天気の良い日は外出をしてご入居者の笑顔が絶えないように支援しています。また職員のスキルアップを図るため月に1回ミーティング時に年間計画に沿った勉強会を職員に割り振り、講師になってもらい勉強会を行っています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。24時間365日、医療との連携も確立しています。自立支援を積極的に行い、その人らしい暮らしをして頂けるよう心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院であるため医療連携が取りやすく、緊急時や急変時でも医師、看護師、介護職員が連携して対応できる体制が作られている。年2回の防災訓練を運営推進会議の開催日に行い、民生委員や行政だけでなく家族にも参加していただくことで家族が訓練内容を評価できるようにしている他、事業所独自に防災訓練を毎月行うなど日頃から災害対策に取り組んでいる。毎月のミーティングで業務に関する意見交換を行ったり、管理者と職員が個人面談できる機会を設けるなど、職員が意見・要望を述べやすい環境づくりができています。運営推進会議に利用者に参加させるなど、サービス提供を受ける当事者から評価していただける機会を作ることでサービス向上に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やGH介護方針を掲示し、理念、介護方針に沿ったサービス提供を心掛けています。介護方針の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という気持ちを持ち、敬う心を忘れないように努めています。	ユニット内だけでなく玄関にも理念の掲示をしており、共有に努めている。また業務に理念を反映できるよう毎日の申し送りの時にも理念の復唱を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、交流を増やすよう努力しています。コロナ前、去年、今年と近くの小学校との交流をしています。	コロナ流行前から地域の小学校の生徒を事業所に招いての交流会を継続している他、地域で行われているお祭り等の行事にも参加することで地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ホームページ等で情報発信をしています。又、ボランティア、学生等の受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催しており、参加者は地域の代表者、包括、行政、ご入居者、ご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行っています。出席者の方々の家族の方々の助言や要望を頂き、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター、行政の他、利用者にも会議に参加してもらっており、職員や関係者の意見のみならず当事者の要望や意向をサービス提供に反映できるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会(民生委員)と情報交換、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。運営推進会議に介護保険課より参加いただき助言等頂いています。	運営推進会議や消防訓練には必ず参加してもらうことで協力関係を築いている。また地域包括支援センターからも地域活動への参加の案内を受けており、ふれあいセンターでの本の貸し出し、近隣病院での講話に参加を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみご家族の同意を得て実施となっておりますが、拘束しないケアに努めています。又、身体拘束の勉強会等で職員の意識の向上に取り組んでいます。	訪室回数を増やすなど、サービスを工夫することで身体拘束を行わないケアの実践ができている。年に1回、法人全体での身体拘束に関する勉強会を行い、さらに職員が講師となって事業所でも勉強会を行うことで職員の意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて「虐待防止委員会」を設置し、研修や勉強会への職員の参加を促し、意識の向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉等に注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方に対し、適切に対応できるよう、関係する資料等を職員へ配布し、勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、資料を用いながら分かりやすい言葉で説明を行い、納得、理解して頂ける様努めています。変更時は、別途書類を作成し、説明の上同意書に署名して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際や家族懇親会等にてご意見・ご要望等を伺う機会を設けています。運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。ご意見箱の設置や、家族へのアンケートにて要望を伺い、伺った意見、不満、苦情はミーティング時や適宣カンファレンスを開き改善策を検討し実施しています。又、運営推進会議にて報告を行なっています。	玄関に意見箱を設置している他、家族の来所時やケアプランの更新時、運営推進会議でも家族の意向を確認し、実際に運営推進会議で家族から事業所内の天井が汚れているという意見が挙がった際には天井の貼り替えを行っている。またコロナ流行前は定期的に職員と家族や家族同士で交流できる家族懇親会も開催していた。	コロナの流行により開催を中止していたが、今年度から家族懇親会の再開を予定している。職員と家族が交流し、事業所やサービス提供に対する意見の聞き取りができる機会になるため、予定通り再開することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて業務改善等検討する機会を設け、業務中に意見や提案が出た場合は職員間で話し合ったり、管理者へ報告し意見、要望の反映に努めています。管理者は個人面談等を行い、職員からの意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月に1回職員間ミーティングで業務の改善等を検討している他、管理者と職員が個人面談できる機会を設けて意見の聞き取りを行っている。また感染症が流行して職員が不足した際には法人内の別事業所から人員を回してもらうなど、職員への負担が大きくなるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。又、職員一人ひとりの特性が生かされる役割を見出し、意欲的に仕事に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示し、参加を促しています。その他、職員面談等において職場や自身の抱える課題を相互確認し、それぞれの課題に対する指導や相談、研修受講を薦めたりしています。ミーティングでも業務に必要なテーマ・技術の勉強会を行い、資質・能力の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域ケア会議において地域包括支援センター、自治会、居宅支援事業所、介護保険課、訪問調査委員、民生委員、福祉用具業者の方々との交流することで、事業所の活動に関する苦情を含めた様々な意見を頂き、サービスの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用前には、情報収集を行ない、本人やご家族の要望に沿ったサービスが行なえるよう努めています。 又、暮らしの中で状態に変化がある場合はその都度話が同よう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行なっています。 ご家族との信頼関係を築けるよう、気軽に要望等話して頂き、相談しやすい環境、すぐに対応出来る環境作りに取り組んでいます。又、来所時には、必ず情報の共有と家族の思いを汲み取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所や関連施設のサービス内容の説明を行い、あらゆる方向から、ご本人、ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒に行い、ご入居者の方に教わったりなどして、介護される一方の立場におかないように配慮し努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、その方が気持ちよくその人らしい生活が出る様に努め、家族でしか満たされないことがある時は、本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支え合えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。ご本人が生まれ、慣れ親しんだ場所を訪れる機会を作り、思い出等大切に来る様に支援しています。	面会の制限はしておらず、家族だけでなく知人や友人でも面会可能であり、希望があれば外出外泊もできる体制をとっている。地域で行われる行事等にも参加できるように対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事、ご入居者同士の会話等の機会を提供し、よりよい関係が築けるように支援をしています。一対一でのコミュニケーションが難しい場合は、職員を介し関わりを持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。 また、サービス(契約)が終了し、他施設や病院へ移られる方についても、情報の提供や相談等は受けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中、様子や会話にて希望・意向・悩み等を汲み取り、又、ご家族より情報を収集し環境作りに努めています。思いや意向の把握が困難な方には職員が様々な観点からアプローチを行い試行錯誤していくことで本人本位の暮らしが出来る様に努めています。	入居前に管理者自ら情報収集(アセスメント)に出向き、思いや意向を把握している。また、日々の生活の中で、利用者の意向をくみ取り、おやつの提供や、レクリエーション活動を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から話を聞いたり、日常生活の会話の中でこれまであった様々な出来事を知ることが出来る様に努めています。又、職員は情報を共有し、その方らしい趣味や生活が出来るような対応を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方や、趣味等を把握し、日々の変化を記録に残し、申し送りにて共有できるようにし、統一したケア、安心、安全な生活が送れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人やご家族に要望を伺いミーティング時に検討し意見交換の場を設け介護計画を作成しています。又、定期的にプランの見直しを行ない現状に合わせた支援が出来るよう努めています。	職員間での意見交換の機会も多く、利用者の介護計画に対するモニタリングやブラッシュアップも行っている状況にある。入居前の施設や自宅で取り組んでいた散歩や食器拭き等の生活リハも必要に応じて介護職員が介することで継続が図れている。	現在、介護職員のみで行っている介護計画のモニタリングに、リハビリの専門職の意見を反映する方法を検討いただき、より専門性の高い介護計画の充実に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子・状態の変化・健康状態(バイタルサイン)・ご本人やご家族の言葉等を記録に残し、全職員が情報を把握・共有しケアの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。又、その時の状況に応じて通院・送迎等も行ない安心した生活が出来るよう柔軟な支援サービスに取り組んだ対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域の行事等に職員が参加する事で交流が図れるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族へ事業所の提携医療機関がかかりつけ医となる旨を本人・家族に説明し、同意頂いています。定期的な訪問診療での情報交換や必要に応じて医師や家族と連絡を取り合うことで、適切な医療を受けられる様に支援しています。	週に1回程度主治医の訪問があり、緊急時の対応も主治医が行うため、利用者だけでなく職員からの安心感も高い。また、居宅療養管理の契約を結んでいる薬局が施設まで出向き、薬のセッティングを行っているため、誤薬事故のリスクを減らす体制が取られていることに加え、普段から職員と顔の見える関係性が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師と介護職は、常に情報を共有し、365日24時間体制で、主治医・看護師・介護職が迅速に対応出来るような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報の共有に努めています。又、入院中も定期的に情報収集し、状況把握に努め医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院が出来るように努めています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、状態の把握に努め、ご本人家族が安心出来る様に急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。又、重度化対応・看取りに関する指針を入居契約時にご家族へ提示・説明することで、早い段階から方針や内容の共有、話し合いが出来る様に取り組んでいます。	看取りケアは行っているが、点滴等の積極的な医療処置を望む場合には常駐の看護師がいないため、より手厚い医療を受けることができる施設や医療機関への転居を提案している。看取りに関する意向確認は入居前に実施しているが、本人の状態に変化があったときにも改めて説明を行っている。なお、エンゼルケアに関する資料やマニュアルも整備されており、実際に施設で看取りを行った際には、管理者が駆けつけることとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時や事故等の対応が出来るよう、取り組んでいます。又、急変時の対応についてのマニュアルを作成しており、全職員が周知出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練・防災訓練と毎月の部分訓練を実施し、初期消火、通報、避難誘導等の訓練を行っています。地域の方々へも参加して頂けるように、運営推進会議にて防災・消防訓練予定の発信をし、地域との協力体制作りにも努めています。同時に消防署にも参加頂き指導を受ける様にしています。ミーティング時にも部分訓練を行っています。	年2回の防災訓練を運営推進会議の開催日に行うことで、民生委員や行政に加え家族の参加することで、行政や地域住民、家族が訓練内容を評価できるようにしている。また、事業所独自に防災訓練を毎月行うなど日頃から災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GH介護方針にもあるように「人権と尊厳を守りましょう」との理念に基づき個々の尊厳を損ねないよう配慮しています。又、言葉掛けや接遇について委員会活動にて勉強会等を開催し意識向上出来る様に努めています。	名字に「さん」の敬称をつけることを徹底しており、居室の扉は必ず閉め、入浴は同性介助で実施する等、ハード面ソフト面共にプライバシーへの配慮の意識が高い。不適切ケアに関する研修は年に3回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表示が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や行動を読み取るよう、心掛け、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムやスタイルを把握し、その時の気分や体調を考慮して、声掛けや誘導を行っています。食事や排泄等何かを行う際にはその方のペースに合わせた声掛けや対応を行うことで安心した生活が送れる様に支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や外出の際は好みの服などの声掛けをします。月に一度、訪問美容サービスを利用しています。又、お化粧品やネイルを職員と一緒にするなどその人らしいおしゃれが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等ご入居者と共に行ない同じテーブルで楽しく食事が出来るよう努めています。又、季節感を味わって頂く為、季節に合わせ果物や食材を替え、誕生日等特別な日には、ケーキなどを用意しています。預り金にて個別で好きなものを提供したりもしています。	月に1回計画されている行事食の他に、利用者毎の誕生のお祝いをしている。誕生日にはホールケーキが提供され、他の利用者と一緒にケーキを取り分けて食べる等、食事を通じて日々の生活を楽しむ工夫がなされている。また、利用者からの要望も積極的に取り入れており、パンや刺身の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、食事摂取量を個別に調整しています。調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。毎月管理栄養士にも相談をし助言を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも利用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握出来るよう努めています。又、ご本人の負担にならないように出来るだけトイレでの排泄が出来るよう誘導や声掛けを行い、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行っています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。	日中と夜間でおむつやパッドの種類を変更したり、居室内にポータブルトイレを設置したりする他、パッドの定時交換やトイレ誘導など使用物品や介助方法を変更することで排泄の自立支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレットを排便状況を把握しています。又、排便コントロールが難しい方は、主治医に相談し薬の調整、水分摂取、乳製品・繊維の多い食物などで調整を行いコントロールが上手く行くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者のタイミングに合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。	利用者が入浴するごとに浴室の清掃を行っている。入浴時は一対一で基本的には同性介助で行われており、どうしても同性介助ができない場合には本人や家族に同意をもらって介助を行うか別日に入浴をずらす等の対応を行っている。また、湯船には施設が準備した入浴剤を入れ、行事としてゆず湯やしょうぶ湯なども提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、生活歴や習慣を参考にし、体操や散歩など日中帯に活動を促す事により生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりの体調や希望を考慮し、適度な休息が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時のダブルチェックも実施しており誤薬事故のないよう取り組みをしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。ユニット間も行き来がありコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出掛けたり、庭に出て休憩をしています。又、定期的に企画を立て行楽地や戸外に出かけ季節感を味わい気分転換が図れるように支援しています。ご家族が自宅へ連れて行って下さることもあります。	敷地内の池で鯉を飼っており、鯉を見に行く時に階段を使うことで、遠出をしなくても外出を楽しんだり、運動量を確保することができている。また、ドライブで稲佐山や近隣の神社に向いたり、長崎くんちやランタンフェスティバルに出かけたこともある。自宅への外泊や家族との外出をした入居者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にてご家族より現金を預かり、必要時には支払い支援しています。可能な方には買い物、支払い等が見守りにて出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、又、ご家族の理解、協力を得ながら家族との絆を大切にしたい取り組みを行い、自宅へ電話を掛けるなどの支援を行っています。携帯電話を持って来られる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、ご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。行事の写真を飾る等、過ごしやすい環境作りに努めています。	リビングは2つのユニット間の仕切りを外しており、広々とした空間になっている。季節ごとの飾りつけを利用者と一緒に作成している。年間4回程度飾りつけの内容が変わっている。掃除は拭き掃除まで毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、ソファではテレビやお好きなDVDを鑑賞されたり、洗濯物たたみや編み物をされたりなど一人ひとりが過ごしたい場所でお好きな事をされ、個々のペースに合わせて過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が過ごしやすいように、今まで使ってきた馴染みの家具や、洋服等持ってきて頂いています。又、居室内を気持ちよく過ごしやすい空間に出来る様、清掃にも気を配り行っています。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、カーテンが備え付けられている。家具の持ち込みは危険物以外は冷蔵庫も含め許可されているが、冷蔵庫内の管理は家族が行うこととなっている。掃除やシーツ交換は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上での動線上に危険が無いかを見極め整備し、身体機能の変化などの状態に応じた福祉用具の利用などにより、生活環境の改善に努めています。又、一人一人のできる事を活かし、残存機能を活かし自立した生活が送れるよう支援をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4290101213		
法人名	医療社団法人 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里小江原(風だより)		
所在地	長崎県長崎市小江原1丁目35-13		
自己評価作成日	令和7年7月29日	外部評価結果確定日	令和7年10月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人の理念に基づきGHの介護方針を策定し、毎日その人らしく、安心で、楽しく生活できるよう支援しています。季節感を感じて頂けるよう、年間行事計画を作成し四季折々の花が咲く頃や天気の良い日は外出をしてご入居者の笑顔が絶えないように支援しています。また職員のスキルアップを図るため月に1回ミーティング時に年間計画に沿った勉強会を職員に割り振り、講師になってもらい勉強会を行っています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。24時間365日、医療との連携も確立しています。自立支援を積極的に行い、その人らしい暮らしをして頂けるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年9月6日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やGH介護方針を掲示し、理念、介護方針に沿ったサービス提供を心掛けています。介護方針の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という気持ちを持ち、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、交流を増やすよう努力しています。コロナ前、去年、今年と近くの小学校との交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ホームページ等で情報発信をしています。又、ボランティア、学生等の受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催しており、参加者は地域の代表者、包括、行政、ご入居者、ご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行っています。出席者の方々や家族の方々の助言や要望を頂き、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会(民生委員)と情報交換、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。運営推進会議に介護保険課より参加いただき助言等頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみご家族の同意を得て実施となっておりますが、拘束しないケアに努めています。又、身体拘束の勉強会等で職員の意識の向上に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて「虐待防止委員会」を設置し、研修や勉強会への職員の参加を促し、意識の向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉等に注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方に対し、適切に対応できるよう、関係する資料等を職員へ配布し、勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、資料を用いながら分かりやすい言葉で説明を行い、納得、理解して頂ける様努めています。変更時は、別途書類を作成し、説明の上同意書に署名して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際や家族懇親会等にてご意見・ご要望等を伺う機会を設けています。運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。ご意見箱の設置や、家族へのアンケートにて要望を伺い、伺った意見、不満、苦情はミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を検討し実施しています。又、運営推進会議にて報告を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて業務改善等検討する機会を設け、業務中に意見や提案が出た場合は職員間で話し合ったり、管理者へ報告し意見、要望の反映に努めています。管理者は個人面談等を行い、職員からの意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。又、職員一人ひとりの特性が生かされる役割を見出し、意欲的に仕事に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示し、参加を促しています。その他、職員面談等において職場や自身の抱える課題を相互確認し、それぞれの課題に対する指導や相談、研修受講を薦めたりしています。ミーティングでも業務に必要なテーマ・技術の勉強会を行い、資質・能力の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域ケア会議において地域包括支援センター、自治会、居宅支援事業所、介護保険課、訪問調査委員、民生委員、福祉用具業者の方々との交流することで、事業所の活動に関する苦情を含めた様々な意見を頂き、サービスの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用前には、情報収集を行ない、本人やご家族の要望に沿ったサービスが行なえるよう努めています。 又、暮らしの中で状態に変化がある場合はその都度話が伺うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行なっています。 ご家族との信頼関係を築けるよう、気軽に要望等話して頂き、相談しやすい環境、すぐに対応出来る環境作りに取り組んでいます。又、来所時には、必ず情報の共有と家族の思いを汲み取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所や関連施設のサービス内容の説明を行い、あらゆる方向から、ご本人、ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒に行い、ご入居者の方に教わったりなどして、介護される一方の立場におかないように配慮し努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、その方が気持ちよくその人らしい生活が出る様に努め、家族でしか満たされないことがある時は、本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支え合えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。ご本人が生まれ、慣れ親しんだ場所を訪れる機会を作り、思い出等大切に出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事、ご入居者同士の会話等の機会を提供し、よりよい関係が築けるように支援をしています。一対一でのコミュニケーションが難しい場合は、職員を介し関わりを持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。 また、サービス(契約)が終了し、他施設や病院へ移られる方についても、情報の提供や相談等は受けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中、様子や会話にて希望・意向・悩み等を汲み取り、又、ご家族より情報を収集し環境作りに努めています。思いや意向の把握が困難な方には職員が様々な観点からアプローチを行い試行錯誤していくことで本人本位の暮らしが出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から話を聞いたり、日常生活の会話の中でこれまでであった様々な出来事を知ることが出来る様に努めています。又、職員は情報を共有し、その方らしい趣味や生活が出来るような対応を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方や、趣味等を把握し、日々の変化を記録に残し、申し送りにて共有できるようにし、統一したケア、安心、安全な生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人やご家族に要望を伺いミーティング時に検討し意見交換の場を設け介護計画を作成しています。又、定期的にプランの見直しを行ない現状に合わせた支援が出来るよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子・状態の変化・健康状態(バイタルサイン)・ご本人やご家族の言葉等を記録に残し、全職員が情報を把握・共有しケアの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。又、その時の状況に応じて通院・送迎等も行ない安心した生活が出来るよう柔軟な支援サービスに取り組んだ対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域の行事等に職員が参加する事で交流が図れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族へ事業所の提携医療機関がかかりつけ医となる旨を本人・家族に説明し、同意頂いています。定期的な訪問診療での情報交換や必要に応じて医師や家族と連絡を取り合うことで、適切な医療を受けられる様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師と介護職は、常に情報を共有し、365日24時間体制で、主治医・看護師・介護職が迅速に対応出来るような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報の共有に努めています。又、入院中も定期的に情報収集し、状況把握に努め医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院が出来るように努めています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、状態の把握に努め、ご本人家族が安心出来る様に急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。又、重度化対応・看取りに関する指針を入居契約時にご家族へ提示・説明することで、早い段階から方針や内容の共有、話し合いが出来る様に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時や事故等の対応が出来るよう、取り組んでいます。又、急変時の対応についてのマニュアルを作成しており、全職員が周知出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練・防災訓練と毎月の部分訓練を実施し、初期消火、通報、避難誘導等の訓練を行っています。地域の方々へも参加して頂けるように、運営推進会議にて防災・消防訓練予定の発信をし、地域との協力体制作りに努めています。同時に消防署にも参加頂き指導を受ける様にしています。ミーティング時にも部分訓練を行っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GH介護方針にもあるように「人権と尊厳を守りましょう」との理念に基づき個々の尊厳を損ねないよう配慮しています。又、言葉掛けや接遇について委員会活動にて勉強会等を開催し意識向上出来る様に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表示が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や行動を読み取るよう、心掛け、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムやスタイルを把握し、その時の気分や体調を考慮して、声掛けや誘導を行っています。食事や排泄等何かを行う際にはその方のペースに合わせた声掛けや対応を行うことで安心した生活が送れる様に支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や外出の際は好みの服などの声掛けをします。月に一度、訪問美容サービスを利用しています。又、お化粧品やネイルを職員と一緒にするなどその人らしいおしゃれが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等ご入居者と共に行ない同じテーブルで楽しく食事が出来るよう努めています。又、季節感を味わって頂く為、季節に合わせ果物や食材を替え、誕生日等特別な日には、ケーキなどを用意しています。預り金にて個別で好きなものを提供したりもしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、食事摂取量を個別に調整しています。調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。毎月管理栄養士にも相談をし助言を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも利用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握出来るよう努めています。又、ご本人の負担にならないように出来るだけトイレでの排泄が出来るよう誘導や声掛けを行い、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行っています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレットを排便状況を把握しています。又、排便コントロールが難しい方は、主治医に相談し薬の調整、水分摂取、乳製品・繊維の多い食物などで調整を行いコントロールが上手く行くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者のタイミングに合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、生活歴や習慣を参考にし、体操や散歩など日中帯に活動を促す事により生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりの体調や希望を考慮し、適度な休息が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時のダブルチェックも実施しており誤薬事故のないよう取り組みをしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。ユニット間も行き来がありコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出掛けたり、庭に出て休憩をしています。又、定期的に企画を立て行楽地や戸外に出かけ季節感を味わい気分転換が図れるように支援しています。 ご家族が自宅へ連れて行って下さることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にてご家族より現金を預かり、必要時には支払い支援しています。可能な方には買い物、支払い等が見守りにて出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、又、ご家族の理解、協力を得ながら家族との絆を大切にしたい取り組みを行い、自宅へ電話を掛けるなどの支援を行っています。携帯電話を持って来られる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、ご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。行事の写真を飾る等、過ごしやすい環境作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、ソファではテレビやお好きなDVDを鑑賞されたり、洗濯物たたみや編み物をされたりなど一人ひとりが過ごしたい場所でお好きな事をされ、個々のペースに合わせて過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が過ごしやすいように、今まで使ってきた馴染みの家具や、洋服等持ってきて頂いています。又、居室内を気持ちよく過ごしやすい空間に出来る様、清掃にも気を配り行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上での動線上に危険が無いかを見極め整備し、身体機能の変化などの状態に応じた福祉用具の利用などにより、生活環境の改善に努めています。又、一人一人のできる事を活かし、残存機能を活かし自立した生活が送れるよう支援をしています。		